

治安・安全情報

(リヨン及びローヌアルプ州)

平成26年(2014年)3月
在リヨン出張駐在官事務所

目次

1. 在リヨン出張駐在官事務所からのお知らせ
2. 今月の安全・防犯のポイント
3. 在留邦人の被害事例
4. 地区別治安情報収集結果(新聞 Le Progrès 紙より)
5. 今月リヨン及びローヌアルプ州で発生した事件(新聞 Le Progrès 紙より)
 - ① 窃盗犯罪事件
 - ② 粗暴犯罪事件
 - ③ 凶悪犯罪事件
 - ④ 知能犯罪事件
 - ⑤ その他の事件
 - ⑥ テロなどに関する一般治安情報
6. 今月の出来事

1. 在リヨン出張駐在官事務所からのお知らせ

日本で、ハーグ条約が発効

4月1日、国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約(ハーグ条約)が我が国について発効し、条約の実施を担う中央当局(外務省)が発足しました。
国境を越えた人の往来が飛躍的に増え、国際結婚及び国際離婚が増加した現在、不法な子の連れ去りの問題に対処するための国際ルールであるハーグ条約は我が国にとっても重要です。
ハーグ条約発効についての詳細は、外務省のサイトをご参照ください。
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_000804.html

ゴールデンウィークに海外へ渡航される皆様へ(海外で注意すべき感染症について)

ゴールデンウィークは、多くの方が旅行される時期です。感染症にかかることなく、安全で快適な旅行となるよう、海外で注意すべき感染症及びその予防対策について、外務省の海外安全ホームページで案内しております。詳細はサイトをご参照ください。

感染症予防のポイントとして次の予防策を案内しており、その他の有益な情報が掲載されています。

- (1) 感染症にかからないようにするためには、感染症に対する正しい知識と予防方法を身につけましょう。
- (2) 渡航先や渡航先での行動によって異なりますが、最も感染の可能性が高いのは、食べ物や水を介した消化器系の感染症です。
- (3) 日本で発生していない、動物や蚊・マダニなどが媒介する感染症が海外で流行している地域も多く、注意が必要です。

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcwideareaspecificinfo.asp?infocode=2014C111>

2. 今月の安全・防犯のポイント

大気汚染悪化 3月9日から警報

3月はフランス全国的に、パリをはじめ大きな都市で大気汚染が深刻になった。気圧配置や大気の動きから、大気中に浮遊する微粒子が都市部の上空に広がって空が霞んだ。自動車の排気ガス、家庭での暖炉などの暖房器の使用による煤、工場などの排出ガスなどが原因である大気浮遊微粒子状物質は、呼吸器系などの健康に悪影響を及ぼすため、大きな都市では自動車の使用を控えるために公共交通機関の利用を促すよう無料にしたり、パリではナンバープレートにより自動車交通制限したりするなど、緊急対策をとった。

トラムウェイ トラムの線路を横断する時には注意！

2001年に開通してから、リヨン市内を走る TCL トラムはその走行範囲を広げ、今日では5本の線(T1~T5)の一日の平均利用客は、約 300 000 人に上る。トラムは特に事故が多い交通手段ではない(2001年以来、死亡事故は9件)が、その線路が街中にひろがり、自動車、自転車、歩行者など、線路を横断する機会がますます増えているため、TCL/Keolis では今回、新しく安全キャンペーンを始めた。昨年末、Berthelot 大通りで12歳の少女が T2 トラムに轢かれて重傷を負った事故があったが、トラムは比較的静かで、バスとは違い走行方向を変えることができず、また非常に重い(空車時で38トン、満車時52トン)ため、ブレーキを踏んで停車するまでの制動距離が長い。トラム線路に侵入する時には、耳を澄ませ、両側に車両がないかを目でよく確認してから横断するように注意しなければいけない。

空き巣犯罪の傾向

ローヌ県では、2010年頃からグルジア国籍の空き巣窃盗団による被害がリヨン市内及び都市圏で増加しているが、2012年の11月ごろから、それより離れた郊外では、同じ東ヨーロッパのアルバニア国籍の泥棒による窃盗も増加している。現在の傾向としては、このアルバニア人窃盗団は、リヨン北西部(Dardilly市 l'Arbresles市 Anse市 Le Bois d'Oing市 Fontaines市や Caluire市など)などで一軒家を狙っているとのこと。侵入するには、PVC合成樹脂製の引き戸型窓をバールやドライバーなどで持ち上げて開ける手口が多く見られ、ガラスは割らない。犯人は20歳から30歳の若者で1人か2人組で行動し、カバンに盗難品(主に金などの貴金属や現金)を入れてバスなどを利用して移動しているらしく、警察では私服警察官をバスに乗せて捜査しているが、彼らには決まった住所などもなく流動的なので、窃盗団の逮捕が困難とのこと。東欧からの窃盗団による空き巣被害が急増加しているのは事実だが、警察・憲兵隊によると、空き巣被害全体の中で彼ら外国人犯人が占める割合は今年約25%から27%(1・2月)であり、それ以外にもローカル(現地)の空き巣犯人達による窃盗被害も多い。

3. 邦人の被害事例

自分の携帯電話に、見知らぬ番号から電話がかかり、ほんの短いコールで切れてしまったが、誰か自分に用がある人かと思って掛け直したところ、相手は無言の機械だったためそのまま数秒で切った。後日、電話の請求書を見ると、その番号は特別有料番号となっており、数秒で切ったにもかかわらず、数ユーロ請求されていたとのこと。悪質な商売もあるため、見知らぬ番号(089から始まる番号等)からかかってきた電話の場合は、無視するべきだろう。

4.地区別 治安情報集計結果

2014年3月集計結果

	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	東	西	南	北	AIN県	ISERE県	LOIRE県	合計
凶悪犯 (殺人、強盗、放火、強姦等)			2	1					1	2		1	1				8
粗暴犯 (暴行、傷害、脅迫、恐喝、凶器準備集合等)	6	1	8	1	3	9	5	5	3	12		5				1	59
窃盗犯 (侵入班、乗り物盗、車上荒らし、ひったくり等)	4	5	8		3	3	6	2	2	9	1	3			1		47
知能犯 (詐欺、横領等)						1	1	1		1						2	6
その他 (賭博、売春、麻薬密売、迷惑行為等軽犯罪等)	1	1	3				4	4	1	8	1	2	3		3		31
合計	11	7	21	2	6	13	16	12	7	32	2	11	4	0	4	3	151

※ 数字はプログレ紙に掲載された犯罪記事発出数で、統計的な意味はない。

グランリヨン東→Jonage, Meyzieu, Décine-Charpieu, Chassieu, Saint-Priest, Bron, Villeurbanne, Vaulx-en-Velin, Mions

グランリヨン西→Craponne, Chaponost, Francheville, Tassin, Brindas, Brignais, Ecully, Sainte-Foy-Les-Lyon

グランリヨン南→La Mulatière, Oullins, Pierre-Bénite, Saint-Genis-Laval, Givors, Vernaison, Vénissieux, Solaize, Saint-Fons, Irigny, Feyzin, Corbas, Vernaison, Charly, Grigny, Givors

グランリヨン北→Caluire, Rillieux, Sathonay, Fontaines-sur-Saône, Fontaines-St-Martin, Rochetaillée-sur Saône, Mont-D'Or, Limonest, Lissieu, Neuville, Cailloux-sur-Fontaines, Montanay, Genay

5.今月リヨン及びローヌアルプ州で発生した事件（新聞 Le Progrès 紙より抜粋）

① 窃盗犯罪事件

3月2日午前2時頃、リヨン市第1区 Terme 通りで、盗難品の携帯電話や交通定期券などを所持している23歳の男が逮捕された。この男は、繁華街のクラブなどで客のポケットから様々なものを盗み出していたらしい。

3月2日、Saint-Priest 市の Porte des Alpes 駅に停まっていたトラムの中で、向いに座って居眠りしていた女性が手に持っていた携帯電話を、若い少女が奪って逃げようとしたが、驚いた女性が飛び起きて追いかけて、足を出したためひっくり返り、少女はそのまま捕まえられた。この少女は、ヘルパーとして働いている際に詐欺を働いた過去があり、すぐに裁判所に召喚された。

3月2日真夜中、リヨン市第5区 Boeuf 通りにあるレストランに空き巣が入った。犯人達は裏口のドアを壊して侵入し、店内にあった金庫を盗んでいった。金庫の中は空だったが、それ以外にもレジの中にはいていた現金が無くなっていたとのこと。

3月3日夜、Villeurbanne 市で、車上狙いをしている者がいるという住民の通報のために、警察が付近を捜査し、17歳と18歳の少年2人がその情報の犯人に酷似していたために容疑者として逮捕した。彼らは、窓ガラスを壊すための金槌と車から盗んだと思われるカーナビを2台所持していた。

3月4日早朝、リヨン市第7区 Guillotière 大通りに駐車してある自分の車の中からカーラジオをとりはずそうとしている男を発見し、女性が警察に通報したため、すぐに男は逮捕された。65歳ですでに18件の前科があるこの男は、非社会的で、「自分はもう20年以来浮浪者をしている、物乞いするよりは泥棒をして牢屋に入って休みたい」と供述。8か月の禁固罪となった。

3月7日午前3時頃、リヨン市第2区 la Barre 通りで、2人組の女性が25歳と34歳のホームレスの男達にしつこく声をかけられて絡まれ、その混乱の中で1人の女性の携帯電話が盗まれていた。通報により、その直後に2人は逮捕された。

3月10日早朝、リヨン市第3区 Part-Dieu 地区で、歩行者が23歳から26歳の3人組の若者に暴行を受け、つけていたステレオヘッドフォンを盗み取られた。そのあとすぐに3人は逮捕された。

3月10日、リヨン市第7区 Tony Garnier 通りで、14歳の少年とその弟が5人のルーマニア人少年達にかこまれ、14歳の兄が殴られ、弟の持っていた携帯電話が盗まれた。通報で、すぐに容疑のある15歳の少年が、現場近くのロム人集団部落近くで逮捕された。

3月12日午後8時頃、Villeurbanne 市 Laurent Bonnevey 大通りで、歩いていた18歳の女性が若い男に携帯電話を奪い取られた。電話を取り戻そうと女性は男の後を付けたが、女性は殴られて催涙ガスをかけられ、結局男は奪った電話を捨てて逃走していった。

3月16日午前3時頃、イゼール県の交通検問で、無免許運転していた男の車が止められた。この25歳のリヨン在住の男は、車の上とトランクに、2台のレーシングカートを積んでおり、その出所を説明できなかったが、尋問で Salaise-sur-Sanne 市のレーシングクラブ場から盗まれてきたものだったことが判明し逮捕された。

3月16日午前3時頃、大量に酒気を帯びた25歳と29歳の2人組の男が、リヨン市第6区 Bugeaud 通りから Tête d'Or 通りの間で駐車してある車のアンテナを40個以上盗み取っていたため逮捕された。このあたりに車を駐車していて、アンテナ盗難の被害にあった人は、3区/6区警察 (tel.04.72.82.15.00) に連絡するか、インターネットでも被害届を提出することが可能 (www.preplainte-en-ligne.gouv.fr)。

3月16日午後10時頃、Villeurbanne 市 Doua 大学キャンパス敷地内で、車上狙いで何台かの車を破壊していた未成年を含む2人組のルーマニア人が、車の横を通ったトラムの運転手が目撃して通報したために、現行犯で逮捕され身柄拘束となった。

3月18日午前4時半頃、リヨン市第6区 Puvis de Chavannes 広場にある店舗の窓ガラスを何者かがハンマーで叩き割り、コンピューター機器を盗み取って逃亡した。犯人達が逃亡する時に使用

した車は、去る2月に Décines 市で盗まれた盗難車で、この事件のすぐ後に Villeurbanne 市に乗り捨ててあるのが発見された。

3月18日、リヨン市第3区 Part-Dieu ショッピングセンターでパソコンを盗もうとしていた29歳と23歳の男女2人組が逮捕された。この2人は、3月3日に Villeurbanne 市内のパン屋で盗まれた身分証明書や運転免許証、小切手帳を所持しており、前日にもパソコンを盗んでいたことが判明した。

3月19日早朝4時頃、リヨン市第3区 Lamartine 通りの一軒家に在住の男性が、就寝中に怪しい音が聞こえたために、起きて音のする居間へ行ったところ、見知らぬ男が部屋の中を物色していた。何をしているかと男性が尋ねたところ、男は家を間違えたと言いながらそのまま逃亡した。男性は自分のスマホ携帯電話が無くなっていることに気づき、すぐにネット上で電話の地理位置情報を調べたところ、近くのバス停にいることを突き止め、直ちに着替えて走っていった。バス停にいた犯人の若い男を見つけた男性は、スマホを返すように要求したが、男はきかずに逃亡してしまつたため、男性は自宅に戻って再度ネットで位置情報を調べ、その情報を警察に通報した。午前5時20分ごろに警察がこの23歳の若者を逮捕したところ、この男は男性の電話以外にも他の携帯電話やGPS、カメラやハードディスクなどの盗難品を所持していた。

3月22日、Bron 市 Genas 通りにある商店から、アルコールなどを盗み出して逃亡し、追跡する者たちに催涙ガスを吹きかけて逃げ切っていた20歳の男が、その後警察に逮捕された。

3月24日、リヨン市第3区 Saxe-Gambetta 地下鉄駅で携帯電話などのスリ（ピックポケット）を働いていた44歳の男が現行犯で警察に逮捕された。この男は、杖をもっていたとのこと。

3月24日、リヨン市第9区 Sidoine-Apollinaire 通りにあるスタッド競技場の更衣室に、未成年数人組が試合中に侵入して、ロッカーの中などから、BMW や AUDI などの車の鍵や貴重品を盗みだした。16歳と17歳の2人は車に乗って逃走したが、警察の姿を見て隠れようとしたために逮捕された。また、26日には同じ盗難事件に関わっていたというもう1人の少年が警察に自首した。彼らは、被害者12名から所持品を盗み取って、1台の車の中にすべてを載積していたとのこと。

3月24日夜、リヨン市第1区 René-Leynaud 通りで、15歳の少年4人組が18歳の若者を、エアゾールに火がついたものを使って脅して殴り、若者が所持していた携帯電話と財布を盗んで逃亡した。直後に3人の容疑者が逮捕されたが、この少年達は施設から逃げ出していた身で、身柄拘束となった。

3月26日、リヨン第3区を走っていたC13番のバスの中で、スリを働いていた男が現行犯で逮捕された。この48歳の男は、同様の前科を持ち、その手口は、人に見られないようにコートに腕にかけたまま、人のカバンの中を開けて中身をそっと盗み取るというもので、バスの中でパトロールしていた警察に捕まえられた。

3月27日午前2時頃、リヨン市第1区 Terreaux 広場で、2人の男が歩いている女性にそっと近づき、ポシェットを奪い取っていった。気付いた女性はこの犯人達の後を追いかけてながら警察に通報していたため、犯人達は中身を探ったあとのポシェットを投げ捨てて逃げて行ったが、この19歳と20歳の男2人組は駆けつけた警察に逮捕された。

3月27日、Vénissieux 市のマクドナルドのマックドライブのレジから現金を盗み取っていた2人組の男が、その後に店員が証言したため、そして盗んだ現金80€を所持していたために逮捕された。

3月30日夜、リヨン市第8区の工事中の学生寮に3人組のルーマニア人が侵入し、ガス台の中の銅管を盗もうとしているところを、警備員がみつけたために逮捕された。

② 粗暴犯罪事件

3月2日、Mezzieu 市在住の27歳の男性が警察に車の盗難被害届を出した。前夜に何者かに脅されて、自宅にあった車を持っていかれたとの事。その後この盗難車は Villeurbanne 市の交通事故現場近くに乗捨ててあるのが発見されたが、捜査の結果、実は盗難被害届を出した車の持ち主の男が、この交通事故を起こして怪我人を出したまま逃走していた運転手だったことが判明した。酒に酔って事故を起こした男は、自分で盗難被害届を創作して事故の責任を逃れようとした。偽証、詐欺、傷害罪で判決が下される。

3月3日、リヨン市第9区 Château-de-la-Duchère 通りで、パトロールしていた警官二人に対して人種差別暴言を吐き、斧をふりまわして脅した22歳の男が逮捕された。

3月4日午後、Mezzieu 市内でヘルメットを付けずナンバープレート無しのスクーターに乗っていた少年達が、警察の姿を見て逃亡し、道路の反対走行方向に進み、さらに歩行者のいる歩道を走って工業地帯に隠れようとした。警官が徒歩で近よった際に、スクーターで警官に向かって飛び込み、さらに逃亡を続け、最終的にスクーターを乗り捨てて走って逃げた。運転していた少年は逃げたが、後ろに乗っていた17歳の少年が警察につかまり、スクーターは盗んだものだったと供述している。また、Vénissieux 市でも同様に盗難スクーターに乗っていた少年が逮捕され、他にも自動車で制限速度を超えて運転し、警察の指示に従わずにいくつも赤信号無視をした男も逮捕された。その前日には、リヨン市第9区 Saint-Cyr 通りにおいて無免許で400ccのクワッド(バギーATM)に乗っている男が警察に逮捕された。

3月5日、Villeurbanne 市 Colin 通りで、20歳の若者が警察に呼び止められた。この男は盗難や麻薬所持などの罪で有罪禁固判決がでており指名手配されていたために、路上で警察が身元確認をしていたところ、男の母親(43歳)が現れて、警察官の手から息子のカバンを取り上げた。そこへ、男の友人の18歳の男が加わり、催涙ガススプレーをもって男を釈放する様、警察官を脅した。応援の警察官が到着した時には、逃げようとしたこの18歳の男も逮捕され、大麻樹脂を所持している上に、Villeurbanne 市滞在禁止令がでていたため逮捕された。指名手配の男は50件以上の前科をもつ。警察に対して反抗した母親は翌日身柄拘束となった。

3月7日、リヨン市第7区 Marseille 通りのスーパー店内で17歳と16歳の少女3人組がウォッカ酒を万引きしようとした。店の警備員が呼び止めて注意したところ、2人の少女が刃物を出して殺すと脅迫した。6月に裁判所に召喚される。

3月8日午後、リヨン市第3区 Edouard Herriot 病院救急病棟に、警察に顔を知られた若者が無意識状態で運ばれた。胸部打撲や絞首の跡があった。その夜に、若者の友人だと名乗るグループ数人が病院に現れて騒動をおこしたが、彼らは実は若者に暴行した者たちだった。

3月8日夜、リヨン市第8区 Genton 通りのアパート内で、39歳と夫と36歳の妻が激しい殴り合いの夫婦喧嘩を2人の子供達の前でしていたために、夫婦は暴力罪で逮捕された。子供達は保護され祖父母宅に預けられた。

3月9日午前3時頃、リヨン市第3区 Docteur Long 通り129番辺りを歩いていた25歳の男性が、突然何者かに瓶で頭を殴られ、Edouard Herriot 病院救急病棟へ運ばれた。

3月9日午後8時近く、Villeurbanne 市在住の54歳の男が、酒に酔って自分の妻の首を絞め、髪の毛を持って床を引きずり回したため、男は自宅で逮捕された。ただし、妻は医者からの診断を受けることや被害届を出すことを拒絶したとのこと。

3月10日午後遅く、リヨン市第2区 République 通りで若者たちの喧嘩騒ぎが起きた。絡まれた15歳の少年が喧嘩騒ぎの中サングラスを落としたところ、絡んできたグループの若者たちが奪い取って逃げていったとのこと。Vaulx-en-Velin 出身の16歳から19歳の5人が容疑者として身柄拘束になって取り調べられた。

3月11日、リヨン市第3区 Dauphiné 通り在住の17歳の少年が、自分の81歳の養父を殴ったために警察に身柄拘束された。取り調べによると、普段から頻繁に養父に暴力を振るっていたらしい。

3月12日真夜中、リヨン市第8区 Berthelot 通りを Vélo'v 自転車に乗って走っていた18歳の男性3人組が、14歳から19歳の少年グループに暴行され、自転車や煙草などを奪われた。少年グループはそのまま Etats-Unis 大通りの方向に逃げて行ったが、通報により翌午前1時半頃に逮捕された。グループの中には、前科を持つ者もいて身柄拘束となった。

3月15日午後8時頃、Villeurbanne 市 Charles Hernu 広場で、睨まれたと逆恨みして1人の少女に激しく暴行した2人組の少女が逮捕された。暴行中に2人は少女の髪の毛を引き抜いた。

3月15日、Lyon St-Exupéry 空港で、カサブランカ行きの航空機に乗ろうとしていた39歳の Bron 市在住男が逮捕された。この男は、その前日 Bron 市役所で家族呼び寄せの手続きをしていた際に、手続きが自分の思い通りにならなかったために怒り、市長と話すことを求めて激しく大声で叫び、自分が乗る飛行機を爆破すると脅していた。この日身柄拘束となったがその後釈放され、9月に裁判所に召喚される。

3月16日午前3時頃、Vénissieux 市内で行われていた交通検問で、止まらずに逃亡していた若者達が、追跡した警察に逮捕された。逃亡中に車が衝突したため乗り捨てて、逃走している際に、所持していた大麻樹脂を投げ捨てた同乗者の若者が逮捕され、その後、衝突時に怪我をして病院にあらわれた運転手の若者（運転免許無保持）も逮捕された。車の持ち主も逮捕時に警察に対して暴言を吐いたため身柄拘束となった。

3月16日朝、リヨン市第3区 Guichard 広場の朝市場で、市議会選挙に向けて広報活動していた極右団体 FN の活動家数人が、20歳から23歳の女性1人を含む4人の極左・反ファシズム者グループから暴行を受けた。このグループは以前にも同様の騒動を起こして警察に知られているが、激しく暴言をはき、チラシを破って地面に投げ捨てたり、唾をはいたり、背中や足を蹴られたりした活動家もいたらしいが、怪我人は出なかったとの事。グループの4人は身柄拘束となった。

3月18日午後、リヨン市第1区でパトロールしていた警官に、突然ある男が襲い掛かって顔を殴った。男はそのまま逃亡したが、その後すぐに République 通りで逮捕されたらしいが、理由などははっきりわかっていない。

3月22日午後10時頃、リヨン市第1区 Jean Moulin 河岸で、酒に酔った若者達グループを警察官が身元検査コントロールをしようとしたところ、警察官2人が若者達から暴行を受けて軽傷を負った。

3月22日午前4時半頃、リヨン市第6区 Masséna 通りのピザ店の入り口ドアを何者かが破壊して侵入しようとしているとの通報があり警察が駆けつけたところ、破壊されていたが侵入された痕跡がなかったために、警察は近くに待機して監視を続けた。すると、しばらくしてから何者かが現れ、ドアをこじあけて侵入しレジの現金を盗もうとしたために、警察が現行犯で逮捕した。

3月23日午前1時40分頃、リヨン市第2区 Edouard Herriot 通りで、ナイトクラブから出てきたばかりの2人組の女性が、近づいてきた男にいきなり殴り倒され、持っているカバンと携帯電話をひったくられた。近くにいた目撃者が男の後をつけて捕まえることに成功したが、この30歳の男は精神病院に何度も入院したことがあり前科もあるとの事で、すぐに駆けつけた警察に逮捕された。

3月24日午後2時頃、リヨン市第8区 Pierre-Delore 通りで少人数の激しい言い争いがあり、銃声が聞こえたために近所の住民が警察に通報したが、警察が駆けつけた時には誰の姿もなかった。その日午後5時半頃、Edouard-Herriot 救急病院から、銃による怪我人がいるとの通報が警察に入り、治療を受けに来ていた30歳の女性と20歳の男性2人が、小型銃弾による怪我で事情聴取を受けた。はっきりした理由は分かっていないが、知り合い同志で話し合っていたところ争いとなり、発砲した者は逃亡したとのこと。

3月24日夜、リヨン市第6区 Lafayette 通りと Notre Dame 通りの交差点で60歳の男がもう1人と激しい争いをし、相手に対して何度も刃物で刺しかかっているところに、呼ばれた警察が駆けつけ、催涙ガスを使って刃物を振りかざす男を押さえつけた。この男は、滞在許可証3通、運転免許証2通、身分証明書やクレジットカードなどすべて盗難品を所持していたために、すぐに身柄拘束となった。

3月26日、リヨン市に習近平中国国家主席が来訪した際、第5区にある l'Institut Franco-Chinois を大統領が訪れるために大規模な交通規制が敷かれて、警察官達の警備体制があまりに厳しいために街が混乱しているとして腹を立てた25歳の女性が、腹いせに警察官を蹴った。

3月26日午後8時頃、Villeurbanne 市地下鉄 Charpennes 駅で、地下鉄の車両ドアが閉まるのを押さえて楽しんでいた若者達に対して、やめるように注意した38歳と52歳の TCL 職員が、この若者達から何度も暴力的に殴られ、1人は床に倒されて首を絞められ、全治7日の怪我を負った。

3月28日真夜中、リヨン市第2区 Saint-Antoine 河岸通りで交通事故があったため、警察が現場に駆けつけて、事故を起こした後逃げようとしていた本人を捕まえたところ、アルコール検査の結果 1,8mg/l の陽性反応がでた。その際にこの男は警察官に殴りかかり、警察官は手を骨折して全治21日の怪我を負った。

3月28日午後10時頃、Vénissieux 市 Antoine Crozat 通りで騒音のための通報があったために駆けつけた警察官たちが、若者たちのグループと対面することとなり、この中には酒に酔った若者が何人もいて、対話が始まる前に1人の若者が「この豚たちに石を投げろ」と言ったために他にも10人程の若者たちが集まってきた。警察官数人はとりあえず避難して、他の警察官達の応援を待ち、その後、主犯の20歳の若者を逮捕した。

3月29日夜、リヨン市第5区 Bondy 河岸で違法駐車を取り締まっていた警察官数人が、通りにあるクラブに集まっていた30人程の若者グループの中の1人に罵られ、ビール缶を投げつけられた。警察官たちは少人数だったために、直ちに応援を呼んだ。若者たちは警察官らを囲みこみ、2人目の若者が侮辱しはじめたため取っ組み合いとなり、警察官の1人は後ろに倒れて柱に頭をぶつけて頭蓋骨を骨折した。5人の若者が逮捕され身柄拘束となった。彼らはフーリガンで、翌日のサッカー一試合場にもいく予定だったとのこと、またうち3人は極右団体に属しているとの事。

③ 凶悪犯罪事件

ローヌ・アルプ州では、3月に5件のATM現金引出し機が爆破攻撃に遭っている。ドローーム県 Rochemaure 市、エン県 Coligny 市、イゼール県 Pont-de-Chéruy 市、アルデッシュ県に続いて、3月7日午前1時頃、ローヌ県 Haute-Rivoire 市の Caisse d'Épargne 銀行でも、ガスによりATM現金引出し機が爆破された。証言によると犯人は4人とみられ、車で逃亡した。警察が追跡したものの、高速道路付近で見失ったとのこと。ATM現金引出し機が完全に破壊されるほどの大きな爆発で、破片が50m以上先に飛び散っており、内部にあった現金すべてが盗まれていた。

3月12日午後2時頃、リヨン市第6区 Lafayette 通りの宝石店に、客を装った強盗2人組が侵入し、店主を銃で脅し、ガムテープで縛りつけて顔をなぐり、店内にあった宝石を奪って、その後店の横の小道を走って逃げて行った。怪我を負った店主は病院に運ばれた。日中、人通りの多い街中で起きた事件に、近所の住民や商店主達はショックをうけている。

3月12日、その前夜に14歳から17歳の5人組の男達から強姦された18歳の女性が警察に被害届を出した。この女性は、友人男性と2人でホテルにて待ち合わせをしていたが、その場に友人男性が招いたと思われる4人の未成年が踏み込んできて、女性はこの5人に強姦された。携帯電話やクレジットカードなども男達に盗まれた女性は、すぐに警察に被害届を出し、18日にこの5人はそれぞれの自宅で逮捕された。集団強姦で禁固重労働の刑が下される可能性が高い。

3月13日夜、Décines 市で男性が殺された。被害者は33歳の男性で、強盗事件などの前科で、11年の禁固刑有罪判決を受けており、仮釈放の身分で刑務所から出てきたばかりだった。また、この男性の兄も2009年4月に、この付近で同様に殺されているとのことで、何かの復讐だとみられるが、状況ははっきりわかっていない。

3月14日、3月5日に Vaulx-en-Velin 市で発生した発砲・殺人未遂事件の犯人として指名手配されていた50歳の男が、リヨン警察に自首してきた。前科のあるこの男の話によると、36歳のブルガリア国籍人男と、3000€の支払い問題で揉めあいとなったが、その際にブルガリア人が落とした銃をひろって、弾を抜こうとしてあやまって発砲してしまったと自供しているが、ブルガリア人はその話を否定し、50歳の男がわざと発砲したと供述しているとのこと。

3月15日午前1時頃、Villefranche 市 Béligny 地区の子供の遊び場で1人の男が11回発砲した。車の窓ガラスに弾が当たった際のガラスの破片で、通行人1人が軽症を負ったが、どんな男がどんな理由で発砲したのかは判明していない。銃弾の痕跡をみると、自動小銃のようだとのこと。

3月17日午後6時半頃、Saint-Fons 市 Carnot 通りにあるパン屋に入って来た若い男が、刃物を持って、現金を出すように要求して店員を脅した。女店主がはっきり断ったところ、この男は言葉を失い、あっさりあきらめて走って逃げて行った。店主が自分の息子にこの犯人の後を追わせ、同時に通報したため、犯人は数分後に警察に逮捕された。Vénissieux 市在住のこの17歳の男はただちに身柄拘束となった。

3月18日午前6時半、リヨン市第9区 Duchère 地区 l'Abbé Pierre 広場にあるスーパーLidl店で、店員3人が開店のために店に入ったところ、パーカーで顔を隠した3人組の男達が侵入して暴行し、催涙ガスとスタンガンで脅しながら店員たちを殴り、店内にある金庫の中の約1000€を奪って逃亡した。犯人達は、近くの Martinière Duchère 高校の門を通過して逃亡したため、犯人を見かけた高校の警備員二人が跡を追いかけて捕まえようとしたが、犯人達はスタンガンで電流を流してこの2人の警備員達に怪我をさせた。Duchère 地区は安全監視優先地域に指定されているが、このような強盗事件はまれだとの事で、警察では調査を進めている。

3月22日午後10時半頃、Vénissieux 市 République 通りにあるガソリンスタンドに、銃を持った男が侵入した。男が銃を落とした際に、この銃はプラスチックの偽物だということがわかったが、ガソリンスタンドの店員は男に殴られ、犯人は空のレジ引出しを持ち出して逃亡した。

④ 知能犯罪事件

2月中旬に、Saint-Symphorien d'Ozon 市在住の男性が、自分の車を人に売り、支払いで受け取った小切手を銀行に持って行ったところ、支払い不可能扱いの口座の小切手だった。この男性は、その直後に自分の売った車が、個人売買サイト le Boncoin 上に掲載されているのを見つけ、購入意欲があると偽って販売人に連絡した。ロワール県 Saint-Etienne 市在住の販売人が、約束の場所にあられる際に、あらかじめ警察に連絡していたため、現場に現れたこの30歳の販売人が、男性に払い出し不可能の小切手を渡した男だったために、警察に逮捕された。

3月17日、詐欺や違法行為を繰り返し、それを隠蔽するために引越しを続けてきた50歳代の女が逮捕された。逮捕のきっかけは、リヨン市第6区にある自動車修理工場の修理代が未払いのままになって姿を消した為に、工場主が被害届を出して調査がはじまった事だった。この女は第三者名義の小切手を保証金の代わりとして渡して、修理された車を引き取ったまま、その後何度工場主が連絡しても修理代を払わないままだった。警察がこの車のナンバーを調べたところ、2012年にパリで盗難にあったレンタカーだったことが判明、連絡先から自宅をつきとめて、この女を身柄拘束した。この女はすでに詐欺の前科を持ち、レンタカーを盗んでからすでに5度住所を変えていた。自宅には詐欺行為をするための偽造書類や偽造小切手、万引きする為（アラームが鳴らないよう）内部がアルミ二重構造になっているカバンなどがあつた。また、St Etienne 市の宝石店からも、モロッコに行って売るためだとしてこの女に預けた宝石の盗難被害届が出ていた。

⑤ その他

リヨン警察麻薬捜査班 GEAD では、第8区 Mermoz 地区で大麻密売網に関する情報の通報を受けたため、監視や尾行などをして捜査を続けてきたが、今回二つの密売網が浮かび上がり2月末に摘発された。北アフリカから配達される大麻樹脂をスーパーバイザーとよばれる者が受領し、その後それぞれの地域の販売人に小分けして配布する。このスーパーバイザーは日中、地域の販売人たちに挨拶回りをし、売上金を集金し、新しく商品を納め、また食事なども与えていた。販売人達は、忙しい時には一時間に10人以上の客に売り捌いていたとの事。先月末、23歳のスーパーバイザーと、15歳と17歳の販売人、また8人の客が逮捕され、大麻樹脂750gと現金670€が押収された。拘束された少年販売人達の話では、一日に1kgの大麻樹脂を売り捌く日もあるとのことで、過去1ヶ月で6kgを売ってキロ当たり1000€の儲けになっていたと供述していたらしいが、警察の話によると儲けはそれより多額であろうと推定しているとのこと。

3月2日午後4時頃、リヨン市第3区を走行していたトラムの中で、女性に痴漢行為を働いた46歳の男が逮捕された。

3月2日午前2時頃、リヨン市第9区の警察署に3人の興奮した若い男達が現れ、その日に身柄拘束となっていた友人を釈放するよう求めて叫び、警察を冒瀆する言動をとって騒動を起こしたために、この3人も数時間身柄拘束されることとなった。

3月3日、イゼール県の Vienne Reventin 高速料金所で、モロッコからスペイン経由でフランスまで大麻約 90kg を運んできた 43 歳のモロッコ人を税関員が発見し、警察に引き渡した。この日、同じ高速料金所では、怪しいライトバンを尋問した税関員が、車の荷台の下の部分に skunk という通常の大麻より強度の THC(向精神薬分)を含有する大麻の一種を 87 kg 発見した。これを密売した場合の売上想定額は 239 140€とのこと。車を運転していた 40 代のスペイン人は失業中で、報酬 3 000€でこの搬送の仕事を引き受けたとの事。男には 5 年禁固罪、5 年間フランスへの入国禁止、罰金 239 140€の有罪判決となった。

Villeurbanne 市 Cusset 地区で、街中で不法に自動車の解体・修理・部品販売などを 2011 年からおこなっていた男が逮捕された。2004 年までは車の修理工場を経営していたが、その後 2005 年に商業登録などを抹消して違法にもぐりで事業を続けながら、収入がないとして生活保護や住宅援助などを受給していた。脱税をしていた上に、業務上義務のある環境汚染しないための施設を設置せず、オイルやガソリン、ブレーキ液体など何年も排水管に垂れ流しにしていた。

3月5日、Irigny 市の 13 歳の女子中学生 2 人が、2 月中旬に市内の墓地内に入っていたずらをし、花を燃やしたり、墓碑を破損したり、墓地内にある葬祭品を移動させたりしたために、警察がそれ以後調査をして 2 人をみつけたし、本人達は罪を認めた。4 月に刑法補償のため司法署に召喚される。

3月7日、リヨン市第3区 Part-Dieu 駅で、30 歳のアルバニア人男が大麻 1 kg を所持していたために、警察に逮捕された。イタリアの Turin 駅で顔見知りから 400€で運ぶように話を持ちかけられたとの事。有罪 1 年禁固執行猶予 6 ヶ月の判決が下りた。

3月8日午後 2 時半頃、ロワール県 Saint-Etienne 市で公演しているサーカス« La piste aux étoiles »に、ショーの始まる直前に動物愛護団体のメンバー約 15 名が乗り込み、客が中に入れないうちに車で妨害し、サーカスを罵言してチケットを破ったりしたために、その日のショーはキャンセルとなった。警察が駆けつけて騒動はおさまったが、同日動物愛護団体が警察に提訴したため、サーカスの猛獣使いが身柄拘束となった。数時間後に釈放された猛獣使いの話によると、動物たちは自分の子供の様に扱っており、毎回公演場所が変わるごとに、県の獣医機関の検査(年間 20 回を超える)も受けているが、4 年前には同様の愛護団体のメンバーが、夜中に 8 匹の動物に薬物注射をして殺し、翌日サーカスのトラックには「動物たちをサーカスで働かせるより、いっそ殺したほうが好ましい」と落書きがしてあったこともあり、動物愛護団体にはうんざりしているとのこと。公演ができない場合、一日 10 000€の損失となるらしい。3 月末までの公演が妨害されないように、警察が警備することとなった。

3月8日、リヨン市第8区 Bataille 通りのアパートで、数か月前から警察が調べていたヘロイン覚醒剤の密売網が摘発された。リーダーはアルバニア人でアルバニアから商品を受けとり、過去 1 年で約 5 kg を売り捌いていたとのこと。

3月10日早朝、Sainte-Foy-Les-Lyon 市 Razes 通りで車が炎上していた。強烈な大麻の臭いがあったため、警察が黒焦げになった車を調べたところ、車の後部分に 15 キロほどの大麻が隠してあ

った。車の持ち主を調べて取り調べたところ、この件については何も知らず、名前もわからない知らない人に車を貸したと供述している。

3月18日、リヨン市第7区 Grande rue de la Guillotière 通りと Garibaldi 通りの交差点のあたりで、数か月前から覚醒剤の密売をしている疑いのあるアルバニア人が犯麻薬警察に逮捕された。この44歳の Mimi と呼ばれる男の密売網は、今年の初めから犯麻薬警察に監視されており、5人の客が逮捕されて証言をとれたために、今回の逮捕となった。家宅捜査で、現金やコカイン、ヘロイン、量りなどが没収された。

3月19日、イゼール県的高速道路 A48 線で、16歳の少年が時速 163 km で車を運転していたために、速度違反で白バイ警察に逮捕された。警察が追跡する際に、この少年は他の車に衝突したが、その後の取り調べで、血液中 0.7 g/l の酒気を帯びており、本人はウイスキーを飲んで父親の車に乗っていたと自供した。

3月22日午前4時頃、リヨン市第1区 Joseph Serlin 通りでディスコの壁に落書きをした若者が逮捕され、警察に身柄拘束となった。

3月22日午前4時近く、Villeurbanne 市 Stalingrad 大通りにある Transbordeur コンサート会場付近で、覚醒剤を密売している若者がいるとの通報があり、警察がかけつけて若者を逮捕した。エクスタシー覚醒剤を数袋売っていたらしい。

3月23日午後2時近く、Villeurbanne 市 Cusset 地区 Commune de Paris 公園の近くで煙がでているのを見かけた警察がその場に行くと、若者達がゴミ箱の周りに集まって燃やしていた。警察の姿をみかけた若者達は一斉に逃亡したが、5人がつかまった。13歳と14歳の2人がマッチを持っており、罪を認めた。

3月26日、リヨン市第7区にある NINKASI コンサート会場内にあるトイレで、次のコンサート公演を無料で見るために、トイレの中に隠れていた20歳の若い女が逮捕された。この女は、トイレの天井板を壊して中に隠れようとしたようで、その被害額は 1000€あまりに及ぶとのこと。

⑥ テロなどに関する一般治安情報

特になし

6. 今月の出来事

ローヌ河で避難訓練、客船が橋桁に追突するという想定

3月18日、リヨン市ローヌ河で、客船ペニッシュが l'Université 橋の橋柱に追突したという設定で、消防隊、フランス水路公団、警察や憲兵隊が揃って、避難訓練が行われた。救助ボートがかけつけ、客船に乗船している150名の乗客の救出、中には怪我人や河に落ちた5人の救助も含まれ、46人の消防隊員が、ダイビングや水面での救助などの現地訓練を行い、いざという時の警報連絡網や救助が迅速に行われるかどうかを確認した。

スキー場で行方不明や事故

3月15日、イゼール県 Sept-Laux スキー場で、28歳のリヨン在住の男性が行方不明になった。この男性は、友人グループと一緒にスノーボードをしていたが、午後1人だけ行方がわからなくなり、夜7時になっても戻ってこなかったために、友人が警察に捜索願を出した。その夜はスキー場

のまわりに霧が立ち込めたために不可能となったため、翌朝、警察が自宅に戻っていないかを確認してから、山での捜索が再開された。標高 1720mにある避難小屋付近に、男性のスノーボード、上着、携帯電話や財布が落ちているのが発見され、その小屋から 800m近くの山道の雪の上で死亡している男性の遺体が発見された。なぜ避難小屋で助けを待たずに、川を渡って濡れながらも歩いていたはっきりした理由がわからないが、死亡したのは、寒さと疲労のためとのこと。

また、3月19日には、サヴォア県の Arc 2000 スキー場では、ゲレンデ外で滑っていた男性が岩壁から 20メートル滑落して死亡した。同時に雪崩がおきているが、この男性の事故と関係があるかどうかは分かっていない。

リヨン市第2区 Carnot 広場で警察一斉捜査

リヨン市第2区 Carnot 広場は最近、盗難や密売(煙草や麻薬等)などの関係者、浮浪者などがたむろし、日中でもあまり治安の良い雰囲気ではなかったが、3月19日午後、80人の警察官が一斉に広場にいる被疑者たちの身元調査を行い、各種密売取引場所の代名詞とならないように、リヨン市第2区警察署長と検事の要請で大規模な捜査が行われた。覚醒剤を所持していた2人が逮捕され、身分を証明できない男が1人いたが、それ以外特に混乱は生じなかった。当日は警察の姿を見て引き返した者が何人もいたらしいが、近辺の商店やレストラン、バーなどでは、今後、このあたりに客が怖がらずに安心して、家族でも来られるようになることを要望している。

貸別荘偽オーナーに注意

スキーバカンスのために、インターネット上でみつけた貸別荘を借りる支払手続きをして現地に到着したところ、そんな貸別荘はなく、騙されるという被害が増加しているとのこと。3月20日付プレグレ紙で証言するカップルは、借料 1000€の支払を前払いで求められたが、半分は現金 mandat cash (郵便局の送金) と半分は銀行振り込みをし、またオーナーと名乗る女性と電話で何度も会話し、鍵も送られていたために信用していたとのことだったが、結局は銀行口座も偽身分証明書などを使って開設しているものだった可能性が高い。警察では、こうした高額の取引の場合には、なるべく生の人間とのコンタクトを大切にし、支払に関しても mandat cash や western union などの現金送金などは避け、直接小切手など手渡しできるような方法を選ぶように勧めている。

路上駐車 車上狙いに注意

今月は、車上狙いや車のアンテナを多数盗まれたなどの記事が目立ったが、過去数年、車のマフラー(排気筒)の盗難被害も増加しているとのこと。マフラーには、極少量だが金やプラチナ、パラジウム、ロジウムなどの金属分が含まれているためらしい。ドローム県やイゼール県でこの盗難が始まり、現在はローヌ県で昨年末から急増し、Oullins 市、Caluire 市、Saint-Priest 市、Bron 市、Givors 市やさらに周辺の Arbresles 市、Villefranche 市などで被害が目立っている。路上や駐車場に停めてある個人の車や、中古車販売店の外の駐車場やスクラップ車置き場などにおいてある、比較的新しくない Peugeot、Citroën や Renault などのメーカーの車が狙われているとの事。大半は夜の被害が多いが、大型スーパーの駐車場では日中にも、簡単にマフラーを切り取っていくとのこと。捜査によると、東欧からの窃盗団の仕業によるものらしい。